

第3回「Let's 和ごはんプロジェクト見直しに関する懇談会」概要

日時：令和7年5月30日（金）13:30～15:30

場所：農林水産省 共用第5会議室

1 取組事例発表

3者からそれぞれ以下のテーマで取組事例を発表。

- 長野県立大学 中澤教授「ひらがな料理普及隊による郷土食継承の取組」
- JA福井県 喜ね舎愛菜館「直売所による郷土食継承の取組」
- 株式会社榊田酒造店「フーディに注目される美食のまちづくり」

2 新たなプロジェクトにおける地域の取組などについて

- 地域で郷土料理を伝承する人が次の世代に伝えることで、地域が元気になっていく。そして、その伝える人が元気になっていくことが、また次の伝える力につながっていくのではないか。
- 若い世代にいかに和食を伝えていくかが重要となるが、直売所は、人々が出会い結び合う場の一つになっているのではないか。
- 若い方が関心を持ちそうな仕掛け、地域や料理にまつわるストーリー、プレゼンテーションなども重要な要素になるのではないか。
- 和の心や文化的な内容が含まれている「食べ事」という考え方は重要。人々が考えるきっかけになるのではないか。
- どうやって気付いてもらって、行動につなげていけるか。そのための発信方法やアプローチの仕方を考えられるとよい。

3 その他

- 和食文化継承リーダーを一層活用していくため、認定者のスキルアップを図っていくことが重要。特に、食文化政策について把握しておくことは、和食リーダーにとっても必要なことだと思う。食文化室にて食文化政策に関するテキストを作っていただき、今年度の和食リーダーが認定される際には配れるようにしていただきたい。そうしたテキストがあれば、大学の講義でも活用できるし、自治体の政策担当者にとっても有用だと思う。ぜひ検討していただきたい。

（以上）